

第9回千代川河川アドバイザー会議 議事要旨

開催日時：令和4年11月7日（月）15:20～17:00

場 所：鳥取河川国道事務所

1. 開会

2. 挨拶

- ・鳥取河川国道事務所長 挨拶
- ・委員長 挨拶

3. 議事

- ・事務局説明

（1）千代川河川アドバイザー会議規約の改正について・・・【資料-1】にて説明

- ・質疑応答

資料番号	委員	意見及び質問	事務局の回答及び対応
資料1	—	意見なし	—

（2）千代川総合水系環境整備事業【事業再評価】について・・・【資料-2,3,4】にて説明

- ・結論：事業継続は妥当。事業実施にあたりモニタリング調査を適切に行うこと。
- ・質疑応答

資料番号	委員	意見及び質問	事務局の回答及び対応
資料3	C委員	H22～23にて整備された袋川分水樋門について、遠隔操作化等今後さらなる整備が必要となるのか。	分水樋門の遠隔操作化は概ね整備できているが、袋川の分水流量増加等による水質改善を図るための実運用上の課題として、流況等監視カメラの設置等が必要となる。
	H委員	この河川水質改善事業を実施する上で一番重要なことは何か。	塩分遡上等の要因により袋川下流域では底泥が堆積しており、濁りや貧酸素化等水環境が悪化している。その要因である底泥を撤去し水環境を改善することが重要と考える。
	A委員	底泥堆積により河床勾配が緩くなっているため川の流れが悪いのではないかと。底泥除去により河床勾配が改善され川の流れがよくなり水質が改善されるということはあるか。	袋川の河床勾配は従来から緩やかであり、河口より塩水が遡上してくるため、底泥除去のみでは流況が改善されることは考えにくい。ただし、底泥除去後再堆積しにくい河道形状とすることは重要と考えており今後検討していく。
	B委員	今回 CVM を用いた手法で費用対分析効果を実施されており、その内容や実施方法について妥当であることは確認できた。今後、事業の効果について住民から求められることになると思うが、完了評価はどのように行い、また、どのように説明するのか。	流域支川協議会である狐川水質浄化検討会にて住民や関係機関に水質改善効果を示すよう考えている。具体的な説明手法としては、事業前後の水質指標を比較する等によりアンケートで事業が良かったかどうかを聞くこととなる。

	H委員	事業効果については、ホームページや新聞記事等広く公開する等工夫してほしい。 また、水質の専門用語では住民にわかりにくいと思うので、住民目線で分かりやすく効果を説明して戴きたい。	専門用語や環境指標等難しい用語もあるが、住民に対して分かりやすい説明を心掛けて説明していく。
	I委員	底泥を除去すれば確実に水質改善されると思うが、その事業効果はどの程度持続するのか。また、再堆積の有無について検討しているか。	持続期間等考察はできていないが、洪水後期に袋川からの分水流量増加により底泥が再堆積しない樋門操作運用を検討中。 浚渫の有効性については、上述のように様々なケースを検討して再堆積防止に最も効果のある手法を選定する。また、定期水質モニタリングによりその効果を検証していく。
	D委員	寺町あたりの袋川は水草が生い茂っており酸欠状態が進んでいる。湯所橋あたりでも底泥によりメタンガスが発生している。本事業は単なる浚渫事業でなく、地球温暖化対策に寄与する潜在的な効果もあるかもしれない。	我々が考えつかない効果も存在するかもしれない。事業箇所のみでなく、流域全体を見て検討を進めていきたい。
	H委員	気候変動など幅広く効果を算定することは重要だと思う。温暖化対策についてもしっかりと工夫、検討して効果を算定してほしい。 <u>事業継続は妥当と判断する。</u>	

4. 開会

- ・河川部 河川情報管理官 挨拶

【配布資料】

資料-1 千代川河川アドバイザー会議規約（案）

資料-2 河川事業の再評価項目調書

資料-3 千代川水系環境整備事業【事業再評価】

資料-4 千代川総合水系環境整備事業【費用便益比（B/C）算定等資料】

第9回千代川河川アドバイザー会議 議事録

開催日時：令和4年11月7日（月）15:20～17:00

場 所：鳥取河川国道事務所

1. 開会

省略

2. 挨拶

省略

3. 議事

(1) 千代川河川アドバイザー会議規約の改正について【資料-1】

意見なし。即日規約改正

(2) 千代川総合水系環境整備事業【事業再評価】について【資料-2,3,4】

(C 委員) H22～23にて整備された袋川分水樋門について、遠隔操作等今後さらなる整備が必要となるのか。

(事務局) 分水樋門の遠隔操作化は概ね整備できているが、袋川の分水流量増加等による水質改善を図るための実運用上の課題として、流況等監視カメラの設置が必要となる。

(H 委員) 本事業の目的は底泥を除去することがメインであり、さらに水質浄化を進めるために分水流量増加による検討を行っている。これには、堰ダム補給分水量、維持流量の確保や県河川管理者や住民との議論等多数の問題もあるし、コストもかかる。これは検討項目で、今回議題となっているメイン事業は底泥除去なのでしっかりその内容を説明すること。この河川水質改善事業を実施する上で一番重要なことは何か。

(事務局) 塩分遡上等の要因により袋川下流域では底泥が堆積しており、濁りや貧酸素化等水環境が悪化している。その要因である底泥を撤去し水環境を改善することが重要と考える。

(A 委員) 底泥堆積により河床勾配が緩くなっているため川の流れが悪いのではないかと。底泥除去により河床勾配が改善され川の流れがよくなり水質が改善されるということは考えられるか。

(事務局) 袋川の河床勾配は従来から緩やかであり、河口より塩水が遡上してくるため、底泥除去のみでは流況が改善されることは考えにくい。ただし、底泥除去後再堆積しにくい河道形状とすることは重要と考えており今後検討していく。

(B 委員) 今回 CVM を用いた手法で費用対分析効果を実施されており、その内容や実施方法について妥当であることは確認できた。今後、事業の効果について住民から求められることになると思うが、完了評価はどのように行い、また、どのように説明するのか。

(事務局) 流域支川協議会である狐川水質浄化検討会に参画し、住民や関係機関に水質改善効果を示すよう考えている。具体的な説明手法としては、事業前後の水質指標を比較する等によりアンケートで事業が良かったかどうかを聞くこととなる。

- (H 委員) 事業効果については、ホームページや新聞記事等広く公開する等工夫してほしい。
また、水質の専門用語では住民にわかりにくいと思うので、住民目線で分かりやすく効果を説明して戴きたい。
- (事務局) 専門用語や環境指標等難しい用語もあるが、住民に対して分かりやすい説明を心掛けて説明していく。
- (I 委員) 底泥を除去すれば確実に水質改善されると思うが、その事業効果はどの程度持続するのか。また、再堆積の有無について検討しているか。
- (事務局) 持続期間等考察はできていないが、洪水後期に袋川からの分水流量増加により底泥が再堆積しない樋門操作運用を検討中。ただし、洪水の発生頻度・規模・継続時間は不定期なので、何年底泥除去の効果が続くか検討できていない。
- (I 委員) 底泥が何年かけて溜まったか調査すれば概ねの効果継続時間は推定できるのではないか。
- (事務局) 現在まで、何年間で底泥が堆積したのかは調査できていないので、定期モニタリング等によりその効果を検証していきたい。
- (D 委員) 寺町あたりの袋川は水草が生い茂っており酸欠状態が進んでいる。湯所橋あたりでも底泥によりメタンガスが発生している。本事業は単なる浚渫事業でなく、地球温暖化対策に寄与する潜在的な効果もあるかもしれない。
- (事務局) 我々が考えつかない効果も存在するかもしれない。事業箇所のみでなく、流域全体を見て検討を進めていきたい。
- (H 委員) 気候変動など幅広く効果を算定することは重要だと思う。温暖化対策についてもしっかりと工夫、検討して効果を算定してほしい。
事業継続については妥当と判断する。

4. 閉会

省略